

東京学芸大学附属世田谷小学校メディアルーム（学校図書館）

2 年間のまとめ～2016・2017 年度～

司書 金澤磨樹子
校長 松浦 執

【子どもの様子から】

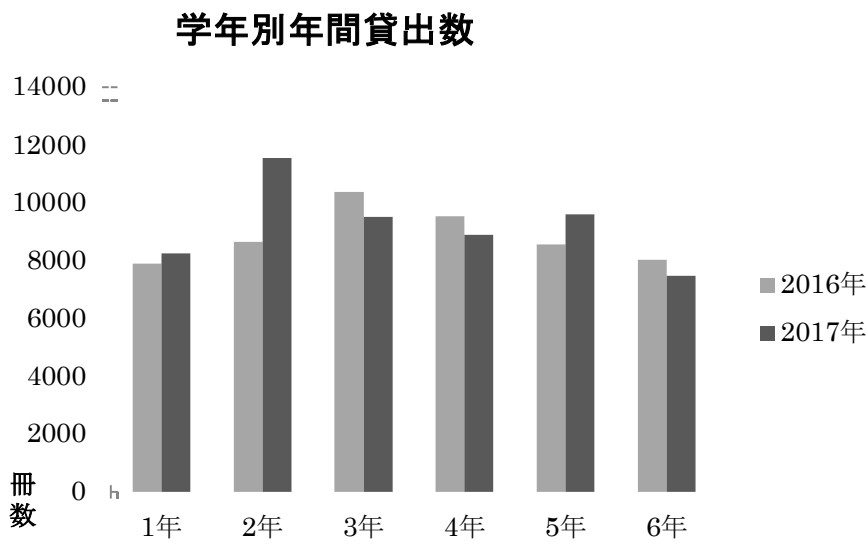
どの学年の子どもたちもメディアルームが好きである。先生方も読書の大切さを理解し、メディアの時間を大切にしてくださっている。本を読むことに抵抗感を持っている子は、ほとんど見られない。むしろ、読書が習慣づけられ、読むことを楽しんでいる子が多くみられる。本を読み読書ノートを書くことを6年間通して行っていることによって、かなりの力がついていると考えられる。

【貸出状況】

表 1 および図 1 に学年別の年間貸出総数を示す。各学年とも近似した年間総貸出数が見られ、その平均貸出数は、2016 年が年間 $(8.8 \pm 1.0) \times 10^3 \text{冊} \cdot \text{年}^{-1} \cdot \text{学年}^{-1}$ であり、2017 年が $(9.2 \pm 1.4) \times 10^3 \text{冊} \cdot \text{年}^{-1} \cdot \text{学年}^{-1}$ と 9000 冊前後を示した。

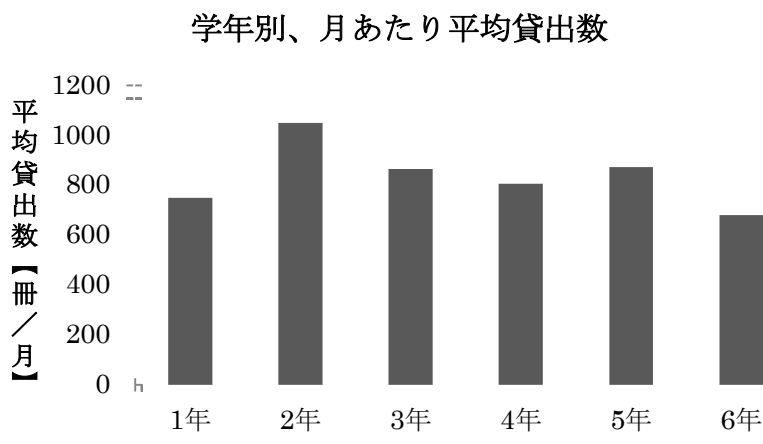
表 1. 学年別年間貸出数

学年	2016 年	2017 年
1 年	7901	8257
2 年	8656	11547
3 年	10384	9512
4 年	9539	8883
5 年	8567	9593
6 年	8021	7484
年間総貸出数	53068	55276



1.

この貸出状況を、貸出していない月を除いた月あたりに換算すると、表 2 の第 2 列のようになり、これを棒グラフにすると図 2 のようになる。1 学年での月あたり平均貸出数は $(8.4 \pm 1.3) \times 10^2 \text{冊} \cdot \text{月}^{-1} \cdot \text{学年}^{-1}$ であり、これを児童一人あたりの 1 ヶ月間貸出数で示すと、 8 ± 1 冊である。図 3 には各学年の一人あたり 1 ヶ月平均貸出数を比較した。学年ごとのバラツキはあるが、極端な差や、



2.

学年進行とともに読書量が変化するなどの傾向についても取り立てて顕著なものはない。附属世田谷小学校では、1ヶ月に一人当たり8冊程度の貸出があることになる。メディア・ルーム以外の書籍の読書もあると推測されるので、本校児童の読書週間は学年を通じてかなり高い方ではないか。

表 2. 月平均貸出総数および児童一人あたりの貸出数 【冊／月】

学年	月あたり平均 貸出数 【冊／月】	一人あたり平均 月貸出数 【冊／(月・人)】
1 年	750	7
2 年	1049	10
3 年	864	8
4 年	807	7
5 年	872	8
6 年	680	6

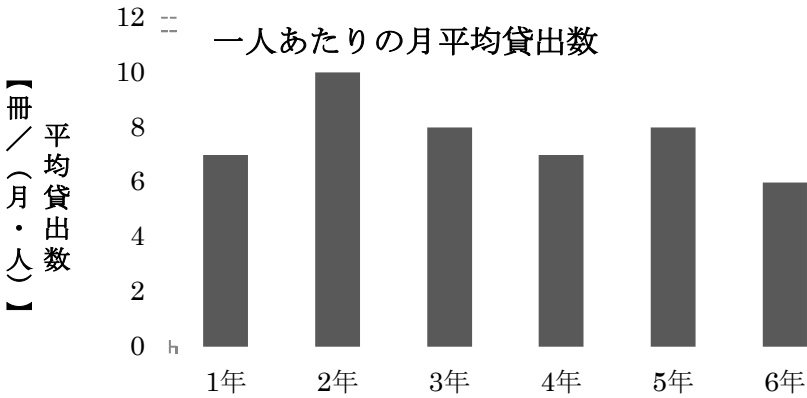
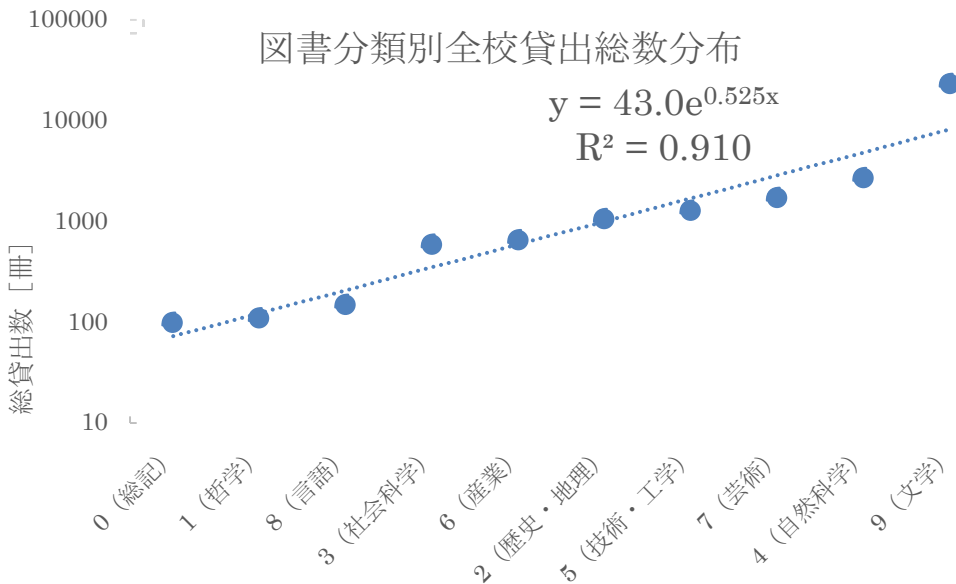


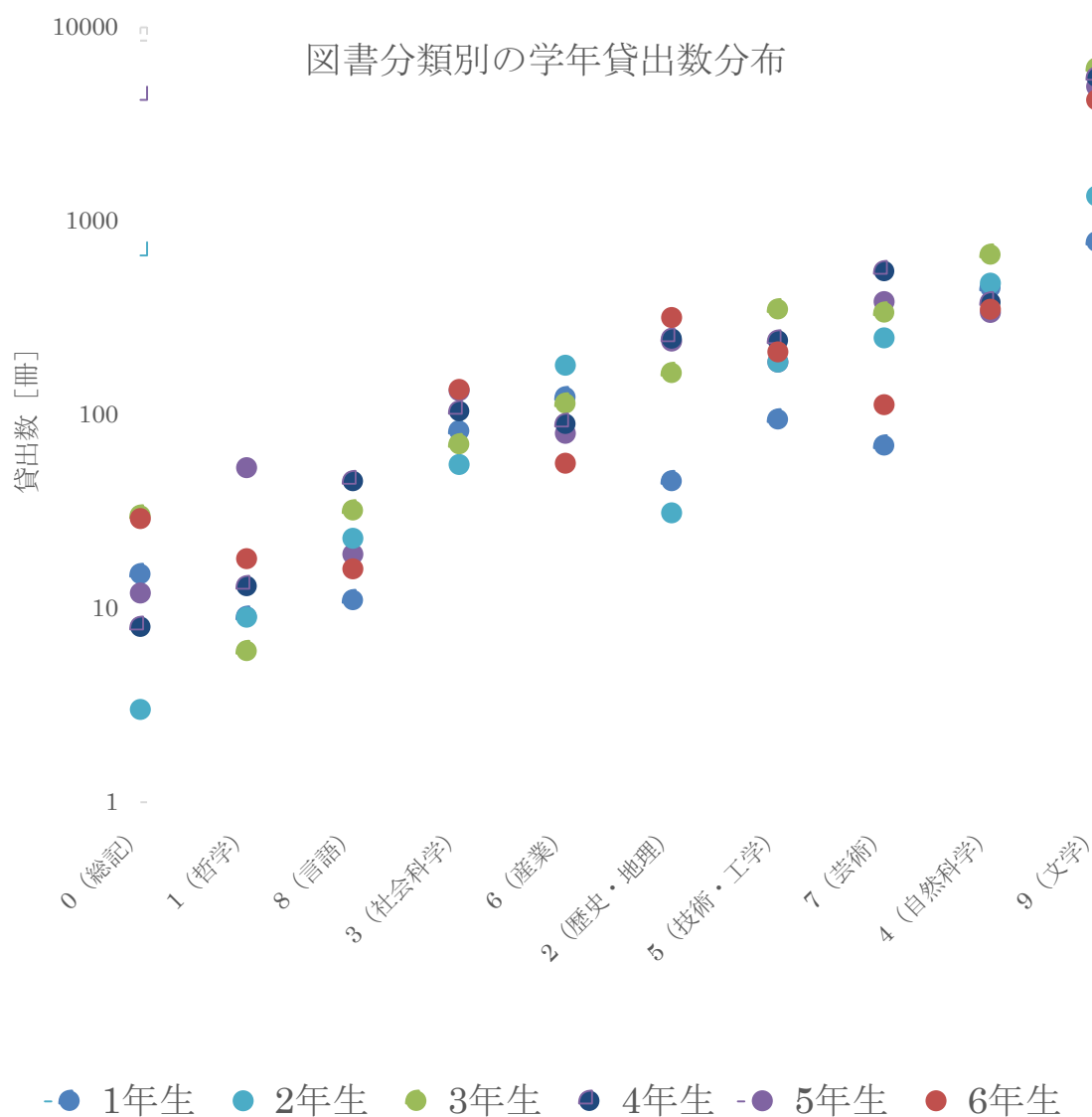
図 3. 児童一人当たりの一ヶ月平均貸出数の学年比較

【図書分類別の貸出状況】

図書分類ごとの貸出状況はどうなっているだろうか。図 4 には、図書分類ごとの年間貸出数を大きさの順に表示した。文学が圧倒的であり 10⁴冊台に及ぶ。社会学、産業、歴史・地理、技術・工学、芸術、自然科学の諸科学および芸術は 10³冊台でこれに次ぐ。総記、哲学、言語の言語分野は 10²冊台で、附属世田谷小の読書分野としてはやや少数の位置を占めることが特徴的である。



読書分野の学年繊維を調べるために、学年別に図書分類別貸出数を示したのが図6である。中学年以上で文学の読書傾向が強くなった。また歴史・地理の読書傾向も顕著に高くなっている。芸術についても、1,6年が低く、中間学年が比較的に高いことは興味深い。自然科学は比較的読書量が高く、また学年によらず同程度であることも特徴的である。自然科学に技術・工学を合わせると、附属世田谷小では理工系の読書傾向がやや高いのだろうか。



【メディアルームの取り組み】

～子どもたちの読書の幅を広げるため、読書意欲を高めるために～

- ① 月に一回の読書新聞（低・中・高）の発行
- ② テーマに沿った本の展示
- ③ 児童による本の紹介（メディアの時間に）
- ④ 司書によるメディアの時間の本の紹介や読み聞かせなど
- ⑤ 3・4年生への「10冊チャレンジ」（おすすめの本のリスト）の配布
- ⑥ 5年生、岩波少年文庫を読んでまとめる。グループでブックトークを作り、発表する
- ⑦ 6年生、ノンフィクションのリスト配布。ビブリオバトルを行う。
- ⑧ 読書ノート終了時の賞状および廊下への掲示

【情報活用の取り組み】

- ① 年度初めのオリエンテーション
- ② 1・2年生に図鑑の利用指導
- ③ 3年生、ポプラディア（百科事典）の利用指導
- ④ 学習年鑑の利用の指導
- ⑤ 書誌情報の書き方について説明

【課題】

昨年度は、情報活用能力育成カリキュラムを作った。それを生かし、活用していくのが今年度だと思っている。読書に関しては、6年間かけて指導されているが、情報活用能力の育成に関しては、まちまちのようにメディアルームからは見える。子どもたちは、自らの疑問を解決しようとする姿が見られるが、それを支えられるメディアルームでありたいと考えている。蔵書の充実はもちろん、先生方とともに情報活用能力の育成という視点でメディアルームが活用されるようにしていきたい。

今年度は、【**学校図書館ガイドラインを踏まえた学校図書館の利活用に係る調査研究事業**】に取り組むことになった。申請は、下記のように行った。

- ・6年間の読書指導の充実をはかる。
- ・メディアルームでは、図書館活用計画に沿って、学年ごとに情報活用のために必要な技能を計画的に指導する。
- ・各教科等を横断的に捉え、情報活用能力育成カリキュラムから作成した具体的な単元を蓄積する。
- ・情報活用能力育成カリキュラムにおける授業実践を校内で共有・評価し、情報活用能力育成カリキュラムを改善する機会を設ける。

先生方と連携をとりながら研究を進めていきたい。